

令和3年度第1回京都市下京区民まちづくり会議① 摘録

日 時：令和3年7月6日（火） 13：30～14：30
場 所：下京区役所 4階会議室
出席者：24名
次 第：1 開会
2 挨拶（下京区長 山本 亘）
3 議題
（1）パブリックコメントの結果について
（2）第3期下京区基本計画（最終案）について
傍聴者：1名

1 開会

○事務局

- ・本会議は区民と行政が協働で取り組む「下京区基本計画」の策定・推進に向けて御意見をいただくことを目的に開催する。
- ・本日は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、開催人数を制限するため、開催時間を2回に分けている。御欠席の方には書面による審議を依頼する。
- ・また、本会議は「京都市市民参加推進条例」第7条に基づき、公開で実施する。

2 挨拶

○山本下京区長

- ・2年以上にわたって、会長をはじめ、委員の皆さんには熱心に議論をいただき、また第一線で活躍する様々な方の御尽力によって計画を練り上げることができた。改めてお礼を申し上げます。
- ・この間、パブリックコメントによって多くの御意見をいただいた。この貴重な意見を可能な限り活かすため、検討を加えてきた。
- ・本日はその反映したものについて御審議いただき、議論を踏まえて修正を加え、最終的に市長決裁を仰ぎたい。市長に会うといつも「行政だけでつくったプランがうまくいった試しはない」と言われる。そういう意味で、この計画は御意見をいただいた皆さんに自分ごととして英知を結集していただいた計画として、区民の皆さんにも、市長にも自信を持って提示できるものだ。
- ・今後は計画のスローガンに向かってまちづくりを進めたいと思うので、本日の御審議も、また今後の推進においても、御協力をお願いしたい。

○事務局

- ・以後、「京都市下京区民まちづくり会議開催要綱」に基づき、会長に議事進行をお願いする。

3 議題

○会長

- ・京都市は新型コロナウイルス感染症、そして財政難など厳しい状況下にある。計画の実行は大変だが、「なせば成る」という上杉鷹山の言葉にあるように、何もしなければ、何も進まない。本日も充実した議論をお願いしたい。
- ・「パブリックコメントの結果」及び「第3期下京区基本計画（最終案）」の議題について、事務局から説明をお願いしたい。

－事務局から資料3～5について説明－

○会長

- ・説明を踏まえて、御質問、御意見のある方は挙手をお願いしたい。

○委員

- ・有隣まちづくり委員会は平成14年、ワンルームマンションをなるべく減らしたいという学区の皆さんの意見をもとに、地区計画に取り組んだ。マンションを建てる際には、ワンルームも1～2割は可能だが、基本はファミリー向けとしている。
- ・修繕して貸し出したり、民泊マニュアルを作成するなど、空き家対策にも取り組んだ。その後、防災まちづくりマップを作成している。当時、実際にまちを歩いて調査したが、作成から5～6年が経って学区内も変化していることから、このマップの見直しも検討中だ。
- ・毎月11日には「ごみ減量大作戦」を実施、多くの方に参加いただいている。
- ・避難所運営も課題。我々素人だけでは運営がうまくいかないところがあり、試行錯誤しているところだ。避難者もお客さんではなく、みんなが手伝うことが大切だと考えている。避難訓練はコロナ禍のこともあり、役員のみで実施し、ダンボールベッドの組み立てや発電機の使用などを体験した。また、実際に災害が起こった時のため、避難所マニュアルづくりに取り組んだ。

○事務局

- ・有隣学区の取組は他の学区でも参考にされているところは多いと思う。醒泉学区ではいかがか。

○委員

- ・まず、まちづくり委員会がどういうものかについて検討し、昨年からは京都市、下京区、ひと・まち交流館 京都の三者にサポートしてもらいながら避難マップの作成を3年計画でスタートさせた。しかしコロナの影響で人を集めることができず、今年、ようやくまちづくり委員会を立ち上げた。
- ・当学区にも木造密集住宅、袋小路・路地（ろうじ）が多く、学区を8ブロックに分け、各町内会長に2日間にかけて袋小路、空き家、民泊施設等について確認してもらった。
- ・毎年4月には町内会長の交替があるが、むしろこれを機会として、町内会長には毎年、

近所を回ってもらうこととし、今年も先週から開始している。

- ・今後もまちづくり委員会を中心とした防災活動に取り組んでいきたいと考えている。

○事務局

- ・下京区としてもできる限り、一緒に取り組んでいきたい。
- ・今回の御提案が最終案であり、計画案に対する御質問・御意見でも、あるいは計画推進の観点からでも御意見をいただければと思う。
- ・他区にはない下京区の特徴として戦略6がある。京都の玄関口として、経済活性化、にぎわい創出を担う区だと考えているが、この点についてはいかがか。

○委員

- ・梅小路周辺では様々な計画があるが、七条商店街では、まだシャッターを降ろしている店も少なくない。コロナが収束していけば、商店街も動き出すのではないかと期待している。
- ・ただ、かつてのような賑わいは戻らないと思う。京都信用金庫やホテルなど経済界の動きもあり、賑わいの性質が異なってくるだろう。我々も力を合わせていきたい。また商店街の会員も高齢化が進む中、何をするにも人づくりが大切だと痛切に感じている。

○事務局

- ・賑わいづくりもまさに人づくりからだと思う。
- ・賑わいづくりでは、下京区は京都中小企業家同友会下京三支部と地域連携協定を締結した。

○委員

- ・京都中小企業家同友会には、社員1人から100人以上まで様々な会員がいるが、地域企業にならなければ道はないと考えている。下京区との地域連携協定を結んだことを活かし、いろいろなことに取り組みたい。
- ・下京支部は会員も多く、下京区基本計画を踏まえて、3つの支部が連携しながらひとつひとつの事業推進に協力していきたい。また、中小企業家同友会全体としては、域内経済循環を目に見える数字にして、自区にお金が落ちる仕組みをつくりたい。
- ・今後、下京区が何を求め、何をやろうとしているのか情報交換しながら、取組を進めたい。

○事務局

- ・ソーシャル・インクルージョン（「社会的包摂」＝社会的に弱い立場にある人々を地域で共に支え合い生活していこうという考え方）の視点でも取組を進めていただいており、区役所としても連携を図りたい。

○会長

- ・貴重な御意見をいただいたので、大いに参考にしたい。
- ・最後に本会議の顧問からコメントをお願いしたい。

○顧問

- ・まちを取り巻く状況はコロナで一変し、先が見通せない社会となった。しかし、コロナはいずれ生じる課題を先取りしたとも言える。そういう意味では、この計画もメリハリの利いたものになったと思う。
- ・今後、ワクチン接種が進んでも、コロナが収束するとは限らない。また最近では、宿泊施設よりもマンションの計画が増えている。さらに、リモートワークの進展で意外と日中でも自宅にいる現役世代が増えている。現役世代の人と関係をつくるチャンスでもあるともいえる。
- ・次の計画までの期間は短く、この会議は計画策定後も継続する。まず、これを現在考えられる中での計画とし、次の計画を考えるための貴重な時間にしていきたい。引き続き、お力添えをお願いしたい。

○会長

- ・本計画案をもって最終案とすることを了承いただけるか。

ー各委員が拍手で承認ー

○会長

- ・最後に今後の予定について事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

- ・今後、この計画は市長決定を経て、策定完了となる。もし会議後でも御意見があれば、事務局まで伝えていただきたい。冊子は8月末までに完成させたいと考えている。また本会議は今年度中にもう一度開催し、計画の進捗状況などを御報告させていただきたいと考えている。

○会長

- ・それでは、以上をもって本日の会議を終了する。

○事務局

- ・今後、最終案を計画として完成させていくが、お気づきのことがあれば、事務局までお伝えいただきたい。
- ・今秋には、衆議院選挙が予定されている。地域代表の皆様にはお力添え賜りますよう、よろしくをお願いしたい。

以上